

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名></p> <p>冠動脈ステント留置後再狭窄病変への薬剤溶出性バルーンの有用性の検討</p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科 (研究責任者)阿久津 尚孝</p>
<p><研究期間></p> <p>承認日 ~ 西暦 2019年 12月 31日</p>
<p><研究の目的と意義></p> <p>冠動脈ステント留置部位に再狭窄をきたした患者様が対象になります。再狭窄病変に対する治療法として薬剤溶出性バルーンを使用しますが、その治療部位における心臓カテーテル所見、冠動脈内光干渉断層法の所見、血管内内視鏡の所見を評価し、薬剤溶出性バルーンの有用性を評価・検討することを目的とします。</p>
<p><利用する試料・情報の項目></p> <p>治療の一環として使用する冠動脈内光干渉断層法、血管内内視鏡を用いて得られた薬剤溶出性バルーン使用部位の冠動脈の血管内膜の画像所見を用います。</p>
<p><対象となる患者さん></p> <p>西暦 2014年 1月 1日から 2017年 4月 30日の期間に当院循環器内科で冠動脈ステント留置後再狭窄病変に対して、薬剤溶出性バルーンを使用し治療した方が対象になります。</p>
<p><研究の方法></p> <p>上記該当年月日以内に冠動脈ステント留置後の再狭窄病変に対して薬剤溶出性バルーンで治療した方に関して上記調査項目を後ろ向きに抽出し、統計学的に解析します。これらの結果は統計処理を行い集計するため、患者様のお名前や個人情報が明らかになることはありません。</p>
<p><お問い合わせ窓口></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 循環器内科 氏名:阿久津 尚孝 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2412 (PHS)8970</p>